

ベストクラス選定理由書

作成者：関裕子、藤原あずみ、田中来瞳、佐古智香、藤原和政、梅本優菜

科目名称：教育行政リーダーシップ特論演習Ⅱ（理念浸透）（夜間クラス） （ 担当教員名：日渡 円、押田 貴久、堀内 昭彦 ）	
課 程：大学院（専門職）	開講時期：通年
授業形態：講・演	授業規模：30人以下
インタビュー対象教員名：押田 貴久 （実施日時： 2023年7月25日 18:30～19:00 ; 実施場所： オンライン（Zoom））	
インタビュー対象受講者名：岡坂憲一 （実施日時： 2023年7月25日 18:30～19:00 ; 実施場所： オンライン（Zoom））	
選定理由 本授業は、教育行政のトップリーダーを養成する教育政策リーダーコースにおける中核をなす授業として構成されている。授業のねらいとしては、全国4会場で開催される「教育行政トップリーダーセミナー」を受講し、全国各地の教育長、管理職等と交流することで、応用力を身に付けるために切磋琢磨することである。 授業評価の自由記述と担当教員、受講生へのインタビュー調査から、担当教員と受講生の授業に対する以下のような姿をうかがい知ることができた。 ① 「理念」を味わい、自分自身を知る 本授業では、100枚のカードの中から自分の理念を5枚選ぶ、グループ内でお互いの「理念」について交流する活動がある。この活動を通して、お互いの理念について、互いに尊重しあいながら交流することで、自分自身の癖や特徴に気づくことができる。癖とは、自分自身の考え方や価値観、話し方に関するもので、自分自身ではなかなか気づきにくい上に、教育行政のトップリーダーにとっては障壁となりうるものでもある。その上、100枚ものある理念が5枚とも全く同じという人はめったにいないため、「理念」が可視化されたカードを使って、交流することが受講生の大きな糧となる。また、授業前後で自分自身の「理念」が変化することもあり、なぜ変化したのか？何が変化したのか？受講生自身で対話することで、まさに「理念」を味わうことができる。 ② 対話する力の養成 応用力を育むことは1人では容易ではない。そのため、学びの場を学外にも設置し、院生以外との交流を通して、お互いを尊重しながら伝える力、対話する力を育めるような活動を実施している。授業では、伝える場が多く設定されており、グループでの活動以外に、自分自身の職場で関わっている人に自分自身の理念を伝え、相手の理念も聞くことで、授業を通して学んだことを実践で生かせるようになっている。さらに、授業の最後には、議会での所信表明演説を想定して、プレゼンテーションを実施する活動がある。この活動では、VTRとしても記録し、全受講生からコメントをもらう。このコメントが、交流を通して対話する力を磨いた受講生にとって今後の「宝」となる。 以上の理由より、本授業は「ベストクラス」にふさわしいと考える。	